資料２

第１回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議議事録

日時：令和５年３月２０日（月）　１８時００分～２０時００分
場所：世田谷区役所三軒茶屋分庁舎３階　産業プラザ会議室

■　出席者
〈委員〉
長山会長、宮井副会長、古谷委員、栗山委員、千葉委員、大平委員、
竹内委員、松原委員、児玉委員、市川委員、大石委員、田中委員、
中山委員、吉田(亮)委員、大藤委員、吉田(凌)委員
〈世田谷区〉
保坂区長、岩本副区長、後藤経済産業部長、中西商業課長、
納屋産業連携交流推進課長、荒井工業・ものづくり・雇用促進課長、
黒岩都市農業課長、平原消費生活課長

1.　開会
【納屋産業連携交流推進課長】
定刻になりましたので、只今より第１回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議を開催いたします。皆様、本日は大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。私は、世田谷区経済産業部産業連携交流推進課長の納屋と申します。本日の議題２「諮問」までの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
本会議は、条例に基づき１７名の委員により構成されております。本日は全体の２分の１以上の委員にご出席をいただいておりますので、世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議規則第５条の規程に基づき、会議を開催させていただきます。
なお、本日は、見城委員について、あらかじめご欠席の旨ご連絡をいただいておりまして、本日の出席委員は全部で１６名となってございます。
まず最初に保坂区長よりご挨拶させていただきます。

2.　区長挨拶
【保坂区長】
みなさん、こんばんは。また、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今、お話しがあったように世田谷区地域経済の持続可能な発展条例に基づく会議の第一回ということで、お集まりいただきました。コロ

ナ禍の３年間は、競争や大量生産・大量消費の時代ではない、健康や命など何物にも代えがたいものをどうやって支えていくか、そういった議論をした３年間だったと思います。ここ１週間では、シリコンバレーバンクの破綻、スイスのクレディスイスの経営危機など金融危機のような不安な状況が訪れ始めております。また、少子化が加速し、昨年は出生数が 80 万人を切りました。韓国はより一層深刻ですが、日本においても少子化が問題となっております。世田谷区でも給食費の無償化をはじめさまざまな対策を考えております。お子さんを育てているご家庭を支援するのはもちろんのことではありますが、出産を最初からあきらめたり、一歩手前で躊躇されている若い世代をどこまで底上げできるのかということも課題だと思います。本日は、区民委員のお二人も含めて世田谷区に根差した経済団体、また、事業の形態も様々な、角度は違えど頑張っていらっしゃる委員の皆さんにお集まりいただいております。現在、基本計画審議会を開催しておりまして長山委員にも委員として出席いただきご提言をいただいているところでございます。そういった計画の案を本年度に答申としていただいき、区としてまとめていく中で、本会議のさまざまなご提言もいただいて一緒に作っていけたらと考えているところです。本日は、お集まりいただきまして大変ありがとうございました。

3.　各委員及び出席者紹介

【納屋産業連携交流推進課長】

ありがとうございました。

資料２「「世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議」委員名簿」の順にご紹介申し上げます。

大変恐縮ではございますが、時間に限りがございますので、名簿の順に私からご所属とお名前をご紹介する形とさせていただければと思います。

学識経験者として、駒澤大学経済学部教授　長山宗広委員、

東京商工会議所世田谷支部より古谷真一郎委員、

世田谷区商店街連合会より栗山和久委員、

世田谷工業振興協会より千葉寿典委員、

世田谷区農業青壮年連絡協議会より大平佳史委員、

産業振興公社事務局長竹内明彦委員、

本日は欠席となりますが、世田谷区消費者団体より見城佐知子委員、

世田谷区しんきん協議会より宮井克明委員、

東京青年会議所世田谷区委員会より松原吉輝委員、

世田谷区建設団体防災協議会より兒玉 奈輔委員、

次に、民間団体・ＮＰＯ等として、

非営利型株式会社Polaris取締役　市川望美委員、
株式会社UPDATER代表取締役大石英司委員、
株式会社cocoroé代表で多摩美術大学講師田中美帆委員、
フリーランス協会 理事兼事務局長中山綾子委員、
三茶ワークカンパニー株式会社代表吉田亮介委員、
次に区民公募から、
大藤清佳委員、
吉田凌太委員、
の以上１７名の皆様による委員の構成となってございます。
皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日出席しております区職員をご紹介させていただきます。
世田谷区長の保坂でございます。
副区長の岩本でございます。
経済産業部長の後藤でございます。
商業課長の中西でございます。
工業・ものづくり・雇用促進課長の荒井でございます。
都市農業課長の黒岩でございます。
消費生活課長の平原でございます。
私、産業連携交流推進課長の納屋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

4.　議題
【納屋産業連携交流推進課長】
　それでは、議題１「会長・副会長の選出」に移らせていただきます。
資料１「世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議規則」をご覧ください。規則の第３条に、会長及び副会長に関する規定がございまして、会長・副会長は委員の互選によることと規定されておりますが、まず、会長につきまして、どなたか自薦他薦ございましたらお願いいたします。

ないようでしたら、事務局からの提案ということで、本会議の根拠となる条例制定時の検討会議でも、座長を務めていただき、また先ほど区長の挨拶からございましたが、区の基本計画審議会の委員でもあります駒沢大学の長山委員に、会長をお引き受けいただきたいと存じますが、皆様いかがでしょうか。

《一同拍手》

【納屋産業連携交流推進課長】
ありがとうございます。それでは、長山委員に会長をお願いしたいと思いまして、もしよろしければ、只今から会長席にお移りをいただければと思います。よろしくお願いします。
それでは早速ですが、会長から一言、ご挨拶をお願いできればと思います。

【長山会長】
会長に選出されました駒澤大学の長山です。専門は中小企業論と地域経済論ということで、世田谷のみならず、研究をしております。先ほどご紹介ありましたように、世田谷区の産業振興条例の改正の際に、委員の中の何名かも一緒に議論しましたが、新しくできた経済発展の条例というところで、そこに関わらせていただきました。その際は条例作りということで、どうしても定義だとか言葉の使い方だとかに終始していた点があるんですが、発展会議は常設の会議でありますし、2年間ということで、委員の皆様には自分ごととして、この会議にコミットすることができるだろうと思いますし、またそういった環境を私もなるべく作っていきたいなという風に思っています。ちなみに、こうした産業振興に関する会議というのは、 世田谷区のみならず23区、地方におきましても同様にございます。うまくいっているところ、あまりうまくいってないところと色々見てきましたけども、うまくいっているところに関しましては、会議と会議の間だとか、インフォーマルな中でのコミュニティ作りが大事であって、そういった中から本当に新しい事業とか、新しい産業とかが誕生していくといったようなことも他の自治体では先進事例としてはあります。そういったことも踏まえて、なるべくざっくばらんに和気あいあいと自由にものが言えるような雰囲気を作っていきたいなという風に思っておりますので、ご協力のほど皆様よろしくお願いいたします。

【納屋産業連携交流推進課長】
ありがとうございました。それでは引き続き、副会長につきまして、選出を行いたいと思います。こちらも、条例の第3条に基づきまして、互選によることと規定されておりますが、どなたか自薦他薦ありますでしょうか。
ないということでございましたら、こちらも事務局からの提案ということで、世田谷区信金協議会の宮井委員に副会長をお引き受けいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

《一同拍手》

【納屋産業連携交流推進課長】
ありがとうございます。宮井委員に副会長をお願いしたいと思います。宮井委員よろしくお願いいたします。なお、副会長のお席につきましては、本日そのままの席で進行させていただければと思いますので、もしよろしければ、一言ご挨拶を頂戴できればと思います。

【宮井副会長】
副会長に選任いただきました世田谷信金協議会の幹事行ということで、やらせていただいております。 普段は世田谷信用金庫の常勤理事ということで、主にお客様周りの業務推進部ということで、やらせていただいております。
区内の金融におきましては、私どもと今ご出席いただいております昭和信金さんと一緒にやらせていただいております。日頃は、お客様周り、特に個人の方もそうですけど、事業者の方と直接お話する機会が多いということでございますので、微力ではありますけど生の意見を皆さんにお伝えするといったところで、いろんな意見を出せさせていただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。以上でございます。

【納屋産業連携交流推進課長】
ありがとうございました。それでは議題の 2、本会議への諮問に移らせていただきたいと思います。保坂区長より諮問をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【保坂区長】
それでは読み上げます。諮問第 1 号令和 5 年 3 月 20 日 世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議 会長、長山宗広様、世田谷区長 保坂展人。世田谷区地域経済の持続可能な発展条例令和 4 年 3 月 7 日条例第 9 号 第 9 条の規定に基づき、下記の通り諮問します。諮問事項、地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方について、でございます。よろしくお願いします。

【納屋産業連携交流推進課長】
ありがとうございました。ただ今諮問いたしました諮問文の写しは、机の上に配布もさせていただいてございます。
なお、大変申し訳ございませんが、区長は、この後都合により退席とさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは今後の議題につきましては、会長に進行をお願いしたいと思います。
会長よろしくお願いいたします

【長山会長】
それでは、議事を進めたいと思います。
まず議題３として、本会議の審議内容等について、事務局より説明をお願いいたします。

【納屋産業連携交流推進課長】
資料４の１をご覧ください。　「世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議について」ということで趣旨紙となります。
１の本会議についてですが、４行目でございますが、令和４年４月に「世田谷区地域経済の持続可能な発展条例」を制定いたしました。
新たな条例では、産業振興や経済発展のみならず、社会課題や地域課題の解決など、従来では経済成長と距離があると考えられてきた価値の重要性なども踏まえ、　新たに４つの基本的方針を掲げております。
４つの基本的方針については、また後ほどの資料でご説明をさせていただきますが、下線にございますように、地域の経済発展と地域や社会の課題解決を両立した持続可能な社会の実現を目指すこととしてございます。
本会議は、これを踏まえ、地域経済の持続可能な発展にかかる指針や、地域経済の持続可能な発展に関することについて、調査審議を行うこととしております。

２の世田谷区産業ビジョンの見直しについて、でございます。世田谷区では平成30年３月に、向こう10年間の産業振興の指針として「世田谷区産業ビジョン」を策定して、これに基づき、産業政策に取り組んでおります。一方で、今年の３月で、策定から５年が経過し、計画期間の中間年を迎えることから、これまでの取り組みの評価・検証を行うとともに、この間の新型コロナや物価高など、区を取り巻く社会経済環境の大きな変化を踏まえ、産業ビジョンの見直しについても検討する必要があると考えております。
こうしたことから、本会議における当面の審議内容としましては、条例に掲げる４つの基本的方針等を踏まえた区の目指すべき具体的な姿や、その実現に向けた戦略方策等について議論検討し、これらを指針としてまとめるべく、つまり、産業ビジョンの見直しということで、調査審議を行っていくことを想定してございます。

裏のページをご覧ください。産業ビジョンの位置付けということで、体系図書かせていただきました。図を見ていただければと思いますが、世田谷区では最上位に世田谷区基本構想というものがございまして、これは20年間の計画となってございます。その下に世田谷区基本計画というものであり、これが平成26年度から令和5年度、次年度いっぱいの10年間の計画がございまして、この見直しが現在進められているところです。
次期基本計画は、産業分野のみならず、子ども・子育て政策であったり、教育政策であったり、高齢福祉分野であったり、様々な分野を包含するものですが、この中で産業分野につきましては、 現状は、先立って成立した「地域経済の持続可能な発展条例」を基本として掲げ、これを具現化するものとして、現在の世田谷区産業ビジョンというものが、時系列は前後しますが、このような体系の下、経済産業政策を展開しているところです。現在、基本計画の見直しが進んでおりますので、これを横目に整合を取りながら、産業政策部分の見直し、つまり、産業ビジョンという指針の見直し、アップデートを図っていくということが、本会議の当面の調査審議事項ということで考えております。

次に資料4の2をご覧ください。本会議の運営要項です。
各条項については後ほどご確認いただければと思いますが、第7条に議事録という条項があり、裏ページの2項で、議事録は公開するということを定めさせていただいております。

次に資料4の3をご覧ください。傍聴に関する要項でございます。
2条の傍聴の方法ということで、（1）会議の開催場所での傍聴と（2）オンライン会議システムを利用した傍聴を用意しております。本日、オンライン会議システムで傍聴される方のために、 オンラインでも放映をしているということで、ご了承をいただければと思います。説明につきましては以上です。

【長山会長】
ただいまの事務局の説明にありました本会議の審議内容等についてご意見、ご質問等はございますか。
なければ、そのように取り扱いさせていただきたいと思います。
続きまして、議題4、産業ビジョンの進捗状況及び産業ビジョンの見直しについて、に入ってまいりたいと思います。事務局より説明をお願いします。

【納屋産業連携交流推進課長】
資料の5から資料の9までご説明をさせていただきます。

まず、資料５の１をご覧ください。「世田谷区地域経済の持続可能な発展条例」について、でございます。先ほど来、何度か言及してきましたが、改めてご説明させていただきます。
本条例は、産業政策の実施にあたり、経済的な観点のみならず、非経済的な価値も重視することを掲げ、地域・社会課題の解決と、経済的発展の両立を実現することで、地域経済の持続可能な発展を目指すことを掲げた条例となっております。
４つの基本的方針を掲げておりまして、１つ目が多様な地域産業の基盤強化を図っていくということ、 ２つ目が起業の促進及び多様な働き方の実現を図っていくということ、３番目が地域課題解決に向けたソーシャルビジネスの推進を図っていくということ、 ４番目が持続可能性を考慮した事業、活動及びエシカル消費の推進を図っていくということの４つを基本的方針と掲げております。
これらの４つの基本的方針をそれぞれ実現に近づけていくことで、目的である地域経済の持続可能な発展に近づけていくという考えになっております。
なお、本条例においては、事業者は当然に軸としながらも、区民にも理解と協力を促し、参画をしていただくような、そういったことも掲げております。
今回、既に条例が改正された中で、産業ビジョンの見直しを行うというのは、これは先ほど資料４－１の中で申し上げましたが、条例の４つの柱について、それぞれ、もう少し具体的な姿を描き、見える化・共有した上で、その姿を実現するには、どのような戦略でどのような戦術や施策で取り組んでいけばいいかということを、ブレークダウンして、議論していきたいと考えております。

次に資料５の２でございますが、こちらは今申し上げた条例の条文となっておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

次に、資料６をご覧ください。
世田谷区内の経済産業状況ということで、我々が認識している経済統計やデータですが、今回、審議いただくにあたって、これらを委員の皆様とも共有させていただいた上で、議論をしていきたいということで、まとめた資料となっております。一部ご紹介させていただきたいと思います。

２ページ目ですが、現在の経済産業政策の方向性、考え方ということでございます。産業は区民生活の基盤ということで、区民の生活の質の向上という観点からも非常に重要ということが基本的な立ち位置でございます。図は、生産・分配・支出を高めることで、地域経済循環を高めることが必要ではないかということ、そのために必要となる施策の考え方を吹き出しで記載をおります。

これと並行して、1番下のところですが、課題の解決というところも図っていくことを両輪でやっていくということで、地域経済の持続可能な発展が実現できるのではないかという考え方で、経済産業政策を展開をしているということでございます。

次に、4ページ目ですが、先ほどの地域経済循環についての、実際の数値ということで、2018年の試算数値ですが、地域の産業が生み出した生産額・付加価値額は約4.3兆円。ほとんどが第３次産業によるものとなっております。これが分配され、雇用者所得として分配されたのは、域外住民に支払った金額と、域内住民が域外で得た所得の差し引きがプラス3630億円となっており、域内で分配されたものと合わせると、約3.5兆円となっております。
一方で、その他所得、例えば、財産所得や企業所得などですが、これについては、差し引きの上では、地域外に8647億円ほどが流出しており、全体としては、青い部分と赤い部分の合計として、地域に分配された金額は約3.8兆円となっております。これが支出つまり消費に回りますが、民間消費は、地域外から流入する消費と、域内住民が域外で消費する金額の差分は2275億円のマイナスとなっており、つまり、民間消費は域外に流出しているということと捉えております。その他支出ということで赤い部分、6700億円の流入がありますが、これは政府支出の流入などとなっております。全体としては、更に分配や支出のところの地域内循環割合を増加させるとともに、付加価値額の増加を意識して各種政策や各種施策の転換が必要ではないかと考えております。

次に6ページ目ですが、事業所数の推移を示しております。左上の棒グラフを見ていただくと、やや減少傾向か横ばいという形になっております。一方で、事業所数の業種別推移、右側の右上ですけれども、区内で最も多いのは卸売業、小売業が約6000前後となっておりますが、これは右肩下がりで下がってきています。次いで多いのが宿泊業、飲食サービス業も同様の傾向かと思います。一方で3番目に多いのが医療・福祉業というのは増加傾向にあったりということが見て取れるかと思います。

次に7ページ目ですけれど、区内産業の売上高や付加価値額ですが、左上のグラフを見ていただくと、製造業では横ばいであったり、卸売・小売業では、大きく 1社あたりの売り上げ額というのは減っている一方で、情報通信業については、大きく伸びを見せているとなっております。左下のグラフは、1社あたり付加価値額ですが、情報通信業の付加価値額が大きく増加しているというのが特徴かと思います。

次に８ページ目が商業の状況でございます。右上のグラフですが、商業拠点の年間商品販売額の推移ということで、真ん中あたりの下北沢駅北口というところであったり、１番右の三軒茶屋についても、販売額というのは、減少傾向になっております。一方で、再開発のあった二子玉川駅周辺では、大きく伸びを見せているというのが、データとしては現れているということでございます。

9ページ目は、世田谷区の稼ぐ力と雇用力というものですが、縦軸が雇用力ということで、飲食店なんかが雇用を大きく支えているということであったり、横軸が稼ぐ力ですが、稼ぐ力で１番大きいのは、インターネット付随サービス業ということで、そういった業種は域外から稼いでいるというデータとなっております。総じて、低いところに密集しているというのが一つの特徴かと思っております。

次に10ページ目は事業者の抱える課題ということで、左が持続的な運営を目指す上での課題ということで、営業や販路開拓、人材の確保とか、育成・働き方の改善というのは、課題としてあげる事業者が多かったということでございます。

11ページ目がＤＸやＩＴの活用についてですが、右上のグラフはＩＴ活用にあたっての課題について聞いたところ、旗振り役が務まるような人材がいない、従業員がＩＴを使いこなせないというような回答が多くございました。

12ページ目がＳＤＧｓへの理解ということで、左のグラフの上のグラフが全国のグラフ、下が世田谷区のデータですが、あまり聞いたことがないとか全く知らないという回答をした、つまり消極的な回答をされた方という人の割合が、全国と比べると、世田谷区内には非常に多かったとなっております。一方で、すでにアクションを行っているということであったり、検討を進めているという風に積極的な回答をされた事業者は、全国と比べるとかなり低かったというデータとなっております。

13ページ目は将来の起業意向、14ページ目が働き方について重視することなどを聞いたグラフでございます。

15ページ目は、宿泊者数についてですが、一概に比較できませんが、 総宿泊者数は少ない状況にあると考えております。一方で、来街者を誘引する取り組

みにより、地域内消費を促し、地域経済循環を向上させていく取組が必要じゃないかというのは、1つ課題としてはあるんじゃないかというように考えております。

16ページ目からは経済状況データ、こちらＤＩのデータでありましたり、18ページ目は、融資や経営相談の状況、19ページ目は倒産件数、20ページ目が消費の動向、22ページ目は有効求人倍率ということで、グレーのところが渋谷、世田谷、目黒区のデータですけども、直近の令和5年1月のデータとしては、2.01倍と2倍を超えているという状況でございます。

23ページ目ですが、ＩＴの専門職とか医療福祉の専門職とかいうことで、専門性の高い分野の求人募集数が非常に大きいということが見て取れるものかと思います。資料６については以上です。

次に資料7が世田谷区基本計画大綱案という資料をご覧ください。
３月14日の第7回世田谷区基本計画審議会で出された資料ですが、これは今後変わっていく内容もございますので、あくまで現時点版ということでご覧ください。

7ページ目をご覧ください。
今後の基本計画の体系でございますが、現時点では基本方針最上位の目指すべき方向性としては、「持続可能な未来を確保し、あらゆる世代が安心して住み続けられる世田谷を共につくる」ということを方向性として掲げた上で、それを実現するための政策として重点政策が6つと分野別政策があるという構成になります。
重点政策の右下に「安全で魅力的な街づくりと産業連携による新たな価値の創出」ということで、ここに主に産業分野は位置付けられております。
8ページ目からが、その重点政策についてもう少し細かく書かれているところですが、10ページ目の⑥のところに先ほどのものがありますが、上から４つ目、５つ目、６つ目のポツをご覧ください。
４つ目のところですが、区民の生活をベースとする起業創業も区内ではかなり見受けられており、事業所や企業による既存産業の振興に加え、区民も産業振興の主体に含め、地域社会の課題を解決するコミュニティビジネスやソーシャルビジネスの振興にも取り組むということであったり、５つ目は、地域の課題解決の担い手となる人材や起業家の輩出が重要であり、起業家の育成や輩出を支える基盤作りを進めるということ、最後の６ポツ目は、新たなビジネス創出

につながる取組を進め、ビジネスの場として魅力的な環境の整備を図るということが、現時点の記載となっております。

続きまして、資料８をご覧ください。
産業ビジョンの見直しを今後検討するにあたって、現在の産業ビジョンの途中経過での、振り返りという資料でございます。まず、資料の見方ですが、大きく３列になっていますが、一番左の列が産業ビジョンの項目、左から大分類、中分類、小分類としての基本施策、となっております。真ん中の列がその概要ということで、文章で記載したもので、ここまでは、現状のビジョンにおいて既に記載をされている内容と転記となっております。1番右の列がこれに対する、現状や課題、今後の方向性ということで、フォローアップ的に記載をした内容となっています。いくつか抜粋をしてご紹介をさせていただければと思います。

小分類でいうところの１番の起業創業支援というところですが、現ビジョンでは、地域産業の新たな担い手を創出する起業創業は重要だとした上で、起業しやすい環境を整備するであったり、起業を促進する取り組みを進めていくということで記載をされております。また、ソーシャルビジネスなど、多種多様な事業が新たに生まれる取組を推進していくということが掲げられております。これに対して、現状等ですが、起業創業相談やセミナー等の実施をやってきたということ、一方で、受講後の継続的な状況把握やフォローなどがうまくできていなかったというところは課題であると考えております。その上で、今後は現在、区で構築を進めております新たな産業活性化拠点での取組を通じて、そのような支援に取り組んでいきたいと考えております。

次に、6番の「ライフスタイルに応じた働き方ができる環境作り」をご覧ください。ここでは、働く意欲のある誰もが自分に合った働き方で働けるように、就職のあっせん相談や、ハローワーク等々とも連携を取りながら、求職者のキャリアチェンジや企業の環境整備を意識したセミナー、面会等を実施し、雇用のミスマッチの解消に取り組んでいくということを掲げております。これに対しては、三茶お仕事カフェや世田谷若者サポートステーション、シルバー人材センターなどにおいて、強みを生かした事業を現在展開をしております。また、退職後の新たな働き方としてR60世田谷というような事業を実施したり、建設業の人材確保や、または区内中小企業との人材マッチング事業や、キャリアチェンジに挑戦できるような事業も、新たに開始をしたところでございます。

次に、裏のページに行っていただきまして、16 番目の「地域特性を生かした魅力を生み出す商店街の形成」というところです。ここは、個店の魅力の掘り起こしであったり、魅力を地域の消費者に周知する機会の充実などにより、商店街を中心とした地域の賑わいの創出と、地域全体の活性化につなげていくということでございます。現状は、まちゼミ、まちバルの開催や、個店グランプリと言われる表彰の実施による情報発信、商店街ごとのホームページの開設などの情報発信に努めてきたということでございます。

次に 24 番目の項目ですが、みんなで育てる世田谷そだちということで、農業関連でございます。世田谷区産の農産物を世田谷そだちと名付けて、ブランド化を推進し、イメージアップと消費の拡大を図っていくと いうようなことを掲げてございました。これに対しては、世田谷そだちの周知を図るためにロゴマークの使用資材の助成や、飲食店店舗の登録制度を設けたり、またはビジネスプランコンテストで、優秀なプランに助成を行うなど、世田谷そだちの PR に努めてまいりました。

最後にもう一つ、33 項目目ですが、多様な産業主体との連携を促進していくということで、事業者同士の交流や意見交流の場を設定するなど、ビジネス機会の創出や産業技術の高度化につながる支援を行っていくということを掲げており、これに対しては、世田谷ポートと言われるオンラインプラットホームやオフラインイベントを通じた事業者間・区民間の交流が生まれる場の構築を行ってきたところですが、一方で、今後は更なる活性化に努める必要があるということで考えております。資料８については以上とさせていただきます。

最後に資料 9 をご覧ください。論点ペーパーということでお配りしております。本日、長らくご説明させていただきましたが、これらの材料をベースとして、例えば、世田谷の地域経済の状況であったり、ご自身や所属する産業団体などの視点から、地域経済を取り巻く事業環境をどのように捉えていらっしゃるかということなどについてご意見や見解をいただければと思います。
その際、課題やニーズ、困難な点または前向きな点などについてもご意見をいただければありがたいと思っております。
また、持続可能な地域経済を実現するために、どのような考え方や視点、キーワード、取組が必要と考えるかということなど、具体的な内容も含めて、お願いできればと思っております。
また、3 点目ですが、現在のビジョンの進捗状況や評価についてであったり、4

点目は条例で掲げる４つの基本的方針について、それぞれ目指すべき姿を具現化するとどういう姿であるべきかという点や、最後のところは、その姿に向けては、どのような戦略を掲げ、どのような取組を行うべきかというような、かなり具体的なお話しもご意見いただければと思っております。
なお、吹き出しで記載しておりますが、特に下の２つにつきましては、第２回、第３回で、特に深掘りをしていきたいと考えております。
全てについて触れて欲しいということではなく、若干なりとも、このようなところを意識していただきつつ、ご自由にご意見をいただければと思っております。長くなり恐縮ですが、説明は以上でございます。

【長山会長】
ただ今の事務局のご説明につきまして、ご意見頂戴する前に、まずはご質問を受け付けたいと思いますがいかがでしょうか。もし、ご質問あれば、挙手をお願いします。

それでは、事務局からの説明を受けまして、ここからは資料９の論点ペーパーにあります内容を中心に各委員の皆様からご意見を頂戴できればと思います。
昨今の事業環境の変化や時代の変化などを踏まえて、今後の産業政策はこうしたことを強く意識する必要がある、世田谷はこういった地域を目指すべきなんだとか、そのためにはこういった取り組みが必要なんだ、といったようなことも含めて、ご意見をいただければと思います。
本日はそれほど時間がございませんので、また、全員にご発言をいただきたいと思っております。 １回のご発言は１人あたり２分程度にしていただければと思います。ご意見ある方は挙手をお願いいします。

【吉田（凌）委員】
御説明ありがとうございました。
論点ペーパーに従って、自分の意見を踏まえて述べさせていただければなと思っています。
世田谷の地域状況というところですが、今、結構悲観的に捉えられてる部分が多いと思うのですが、自分としては、周りの状況を見た時に、結構楽観的に捉えていい部分もあるのかなと思っていて、それは１つの背景としては、コロナで食住連携と書かれていたと思うんですけど、自宅にいながら仕事するという空間がすごく増えたことによって、逆に地元に根付いたものを食べたりとか、地元に根付いた体験をするということが増えたので、そこに対する意識は増えているのかなと思っています。

ただ、その反面、特に地方から移住してきて、こっちに住んでいる人の目線からすると、どこに行けばいいのか分からないということだったりを聞いたりするので、そこら辺はちゃんと整理しないといけないのかなと思っています。2つ目のどのような考え方が必要かというところですが、今申し上げた通り、地元に繋がりがある人は特に問題ないと思うのですが、地元に繋がりがない人、特に大学などで上京してきて、初めてここに住んでいる人であったり、その後に仕事で来ているような方々が孤立してしまっているという現状はあるのかなと思っています。
したがって、そういう方々が積極的に外に出て、コミュニティの中に入っていけるような、融合していけるような何かが必要なのかなと思っています。
最後のビジョン、産業振興計画のところですが、2つ、読んでいて気になったところがあり、SDGsの普及とか学習というワードが出ていたと思うんですけど、自分としては普及というよりは、利用とか使用の方が大事なのかなと思っていて、具体的な例で言うと、例えば、今この会議でお茶が配られていますが、これを世田谷のものを使ってみるとか、普段の生活の中でまず議会から世田谷のもの、世田谷育ちのものを使っていかないと、他の人が見た時に、これって本当にいいものなんだろうかという疑問が生じてきてしまうのかなと思うので、普及とうよりはまず利用するということがまずは大切なのかなと思っています。
あともう1つなんですけど、職住連携っていうところで、職住連携もすごい大事だと思うんですけど、それ以上に職住連携ともう1つ何かが必要だと思っていて、職と住が連携してしまったことによって、自分が何をやってるのかわからないって鬱になってる人が自分の周りには結構いて、そういう時に自分の家の近くに畑とかあったりするんですけど、畑とかに出て、一緒に友達と話すとか、サードプレイスがあってそこに出て交流するという空間が生き甲斐になってるみたいな話をよく聞いたりするので、職住連携ではなくて、職住と何かの連携が必要なのかなと感じました。
以上になります。ありがとうございました。

【長山会長】
まずは、民間団体や個人で出席されている方々からご発言をこの際いただければと思います。

【市川委員】
今の吉田さんのご意見に私もすごい重なるところが多くありまして、まず、この状況をどう捉えているかというところにおいては、今、コロナの状況も落ち

着いてきて、改めて再構築したり、再選択するタイミングにいるのではないかと思っています。実際に、この2年、3年で地域とか自分の暮らしというのが、身近に感じた人もすごく多いですし、実際に地域のプレイヤーも増えていると思いますので、地域との接点を増やしていく取組みは有効ではと思っています。そこにどれだけ機会が作れるかということで、前向きに捉えているところもすごくあります。

この条例自体が前回の検討の時にも、端的に表現できない条例であるけれども、だからこそそれを丁寧に区民であったり事業者の方が理解し、納得し、行動できるような対話の機会もセットしていかなければいけないということはお話をしたと思うんです。改めてこの条例の中でどういったアクションを取っていけばいいのかとか、そもそもどう感じたとか、そういった対話的な場なども設けながら、体感したり、自分がこのサステナブルな取組みだったり、循環の輪の中にいることが感じられるようなことが出来るような、多様な実験的なことなどが生まれていくといいと思いますし、そこに地域の事業者とかこの取組みに賛同した人たちで、プラットホームのようなものを形成しながら、既存の仕組みの中で、クイックにやっていくことも必要ではあると思いますけども、新しい取組みをみんなで推進していくんだというような、そういったプラットホームの基盤になっていけばいいなと思っています。 新しい取組みが可視化されたり、自分が様々な取組みの繋がりの中にいることが感じられるようなことが望ましいと思っています。

あとは、世田谷区の方向としては、人とか人的資本経営のような観点が合うのではないかと思ってます。人口も大きなところですし、多様な人がいますが、実際、地域にまだまだ関われていない人も多いと思いますし、R60という事業の中で、区内事業者とお話することが多かったんですけど、実際、区民の従業員というのは非常に少なく、世田谷に住んでいて世田谷で働いている人というのはそれほど多くはなく、意外と接点が持ちにくいということでした。したがって、区民が地域の事業などに関われるような、多様な働き方の機会というのは、R60はシニアに限定したものではありますけども、もっと幅広い世代に開いていくことで、仕事を通したり、何か役割を通して地域に出会って、愛着も湧いて、ふるさと納税がすごく減ってるというのは世田谷の大きな課題だとも思いますけれども、自分の街に関わるという体験を地域の事業者と連携して、人的資本経営なり、その人材を活かすという観点から推進していくというのは、私の事業としても関心がありますし、そういうところに関わっていけたらいいなと思っています。

最後に、今のに繋がりますけど、中小企業のSDGsなりESG、サステナブルのような取組みは、まだまだ進んでいないということもありますので、先ほどお

話したような、新しい人材の地域との関わり方のようなものを、地域の中小企業と一緒にやっていけたらいいのではと思っています。実際、関心が、先ほどのグラフでも他のところに比べて積極的に捉えている方があまりいないということでありました。SDGs 知ってはいるけど、まだやる予定がないというような、知っている段階までの方は世田谷には非常に多いので、そういった方が具体的に、先ほどのお茶の話もすごくいいと思います。この小さな取組みが、自分たちの SDGs なり、サステナブルな取組みに繋がるというような事例が多く生まれるようなことで、そういうアクションが SDGs のターゲットなり、目標なり、行動なりアクションがたくさんあって、それを 1 個 1 個やっていくことが、コレクティブなインパクトに繋がっていくみたいなことが実感できると良いのではと思いました。

あと財源も休眠預金とかもありますし、インパクト投資とかもありますし、なんらか社会課題に関する実験的なお金を持ってきて、新しく産業化していくようなことも、基盤になっていくといいなと思っております。以上です。ありがとうございました、

【大石委員】
アップデーターという会社で、みんな電力という再生可能エネルギーの電力の供給をさせていただいている会社です。

SDGs の、そんなに実行する意思がないというデータは結構衝撃を受けて、私は割と世田谷区はそういうことをやりたい人が多いのかなと思って、実際に起業したところもあり、あんなに関心が薄かったんだというのは改めて衝撃を受けたというところはあります。

私たちは世田谷区と一緒に顔の見える再エネというところで、今、ブロックチェーンという技術を利用した顔の見える再エネをやっているんですけども、それは元々、区から出た要望を私たち民間事業者がある種実現をして、自治体とベンチャーのコラボの中で 1 つ強みを作って、ベンチャーとして成立させてきたという背景があります。1 つの異業種が出会ったからこそ、自治体とベンチャーが出会ったからこそ起こったことであって、それをより活性化させていくために、何が必要なのかなと思ったときに、世田谷は例えば、下北沢が文化の街だったり、例えば二子玉川が先端の街だったり、成城などは特色のある高級住宅街だったり、三軒茶屋は昭和の風情の残る街だったり、それぞれ特徴があるんですけど、これは基本条例検討時にもお話ししたんですけども、いろんな特徴があるからこそ、全体としては散漫になるというか、いろんな特徴がそれぞれ打ち消し合うような側面もある。例えば立川市は、最近、立飛のエリアをウェルビーイングタウン、心理的安全性の高いタウンとして、SDGs でブラン

ディングされていっているというか、 立川のこのエリアはこういうエリアとか、私たちも、みんなエアーという事業でオフィスを構えませんかとお誘いいただいたりするが、心理的安全性を高めるようなアイテムとしては立川が向いてるんじゃないかっていうことで、ある意味そこに出店する動機付けになるんですよね。

世田谷区の場合でも、どこのエリアにどういうベンチャーが行ったらいいのかということで言うと、ある種の特徴付けがあった方が、これから世田谷区で起業される際にも選択肢の１つとして入りやすいんじゃないかなというのが１つあって、まず魅力的なところがあるからこそ、それぞれ特色付けを明確にしていった方がいいんじゃないかなと、区のリードの中でというのがまず１点。

世田谷区の魅力的なところとして外部有識者の方もおっしゃるんですけど、NPO とかソーシャルセクターの皆さんがものすごく多い。区だとか民間事業者がサポートしきれないところを結構やってらっしゃるっていうのを、いろんな方が言われる。ソーシャルセクターがたくさんある、文化人もたくさんいる、僕らみたいなベンチャーもいるし、商店街のような昔からの古い産業が残ってるということでは、それぞれの人たちは点ではいるんだけど、面にならないというところがある。例えば、先ほどのエリアごとの特色付けと、その中で異業種の皆さんが出会う場というか、その特色の中で、お互いにどんなことを掛け合わせて、そこでイノベーション起こすのかと。イノベーションは多様性から生まれてくるものだと思いますので、2 つステップあると思っていて、特色付けと、ソーシャルセクターとか文化人とか、自治体とか、ベンチャーとか既存業種の異業種の交流というか、この 2 つのステップの中で街を活性化させていくというのが、いろいろなデータを見た中で感じていたことです。

【田中委員】

断片的な話で、上の 2 つぐらいの話になってくるんですけど、まずは私の背景からご紹介がてらお話すると、二子玉川の再開発に伴った過去 10 年、小さい会社で起業して、職住近接で子育てしながら自分で事業やってるっていう者ですので、地域経済のど真ん中にいたのかなと思っていて、楽天さんが来て、これからこの町は暮らす街でなくて、1 万人の働く人が増えるいう流れをずっと見ながら今に至るというような形です。女性企業家、子育てというリアルな体験をしながら、今に至るっていうような、 そんなところを見てくると、例えば二子ビールさんとか、世田谷育ちの野菜を使った商品開発とも絡んだり、二子玉川エリアマネージメントの皆さんと絡んだりみたいな、そういった絡み方はあると言えばあるんですけども、大石委員がおっしゃってたように、なんとなく点と点が繋がるぐらいのレベルで、面にはなってないというところは感

じる。もう少し能力あるママの方々とかたくさん知っているので、この街の中で、二子玉川イコールショッピングモールみたいな感じじゃなくて、何かそういった繋がりみたいなものが少し足りないかもしれないな、なんていう実感はちょっとあるというようなところが最初の話になります。

次の視点の部分、３点ほど私の方からアジェンダあげみたいなところがあるんですけども、お話させていただければと思ってます。

１つは、歩行者に優しい街づくりみたいなものはキーワードとして、視点としては是非取り上げたいと思ってます。

２つ目がＺ世代以下の街づくり参画みたいなところで、今日もそうですけど、私も含めておじさんしかいないっていうような、これから50年後、100年後をリアルに生きる今の10代、20代の方々のポテンシャルというのは、私は講師をやっていて、ソーシャルデザインっていうような授業もやってるので、年々、SDGsをすごいしっかり勉強してきてる10代、20代が増えてるっていうことと、今の社会構造にもやもやしている若い人たちを目の前にしているので、そういった人たちとの関わり合い、市川委員おっしゃってたような対話の場は必要じゃないかと思ってます。

３つ目はコミュニケーションの話です。世田谷と言えば例えばサーキュラエコノミーとか、優しいエネルギーとか、例えばですが、徳島県上勝町はゴミを40分別して、市民がゴミを出すみたいなことで有名で、市民が1500人しかいないけど海外から2000人ぐらい毎年視察が来るみたいな。世田谷区といえば、持続可能のこれっていうようなところっていうものは、コミュニケーションの課題としては、今回の会議体の中でも少し軸が見えてくるとすごくいいんじゃないかなっていうような話なるかと思います。

最初の１番がちょっと説明不足だったんですけど、国土交通省が歩行者に優しい街づくりを推進しだしているんですよね。例えば商店街でも車が中心になってきてしまうと、せっかく１階に商店があって、２階に事務所があってという街になったとしても、あまりいい気持ちはしないと。ポテンシャルとある道路は世田谷区にいっぱいあると思うんですけども、どうしてもやっぱり車社会になっちゃうと、何十年も課題なんですけど、横断歩道に歩行者が立ってても止まってくれないじゃないですか。統計では、東京都は10％ぐらいしか止まってくれないと。全国でもそんなに止まってくれないっていうのが警視庁の課題でもずっと問題視されているので、世田谷区はせめて歩行者に優しく、横断歩道では必ずあの車が止まると。それだけでも歩行者に優しい街になれば、商店街の活性化とか、地元で暮らしやすくなるっていうような部分っていうのは、ある程度実現していくような、そういった流れができないかな、なんていう風に思っておりました。以上になります。

【中山委員】
説明ありがとうございました。
私自身は世田谷区には住んでいないということで、1番目の問いについてはお答えしかねるところではあるんですけれども、東急田園都市線の外れの南町田でコミュニティースペースですとか、飲食店の経営をしておりまして、今日はフリーランス協会ということで、フリーランスとか副業の方を支援する団体の立場で参りました。
　資料6を拝見して、販路の開拓であったり、世田谷区内の事業者さんたちの悩みっていうのが非常によく理解できたなっていうところで、全国どこの地域に行っても同じじゃないかなと思ったんですけれども、経済、経営的なところでの閉塞感みたいなところがあるのかなというのを感じました。
　一方で、デジタルの情報通信の事業者は売上や収益が伸びているっていうところで言うと、DXのできる人材がいないみたいなところでは、区内で何とかしなければっていうところにもなりがちかとは思うんですけれども、全国に本当にいろんなプロフェッショナルの方がいらっしゃるので、フリーランス協会の立場としては、この地域で頑張ってらっしゃる事業者の皆さんが、より簡単に外部のプロフェッショナルに頼れるような、橋渡しとかIT的なこととか、人材的なことも含めて、突破口を見つけ出せるような支援というのができたらいいんじゃないのかなというのは感じました。
　いろんな地域でフリーランスの活用に乗り出してくださる事業者さんいらっしゃるんですけれども、なかなかこうイメージが湧かないとか、どう頼んでいいか分からないみたいなところで足踏みされてしまうところが多いので、実際、世田谷区の中にもすごくたくさんのフリーランスの方がおられて、ITに強い方もいれば、マーケティングに強い方もいれば、新規事業を専門でやってる方もいらっしゃるはずなので、区内の中で経営者と個人事業主の方のお見合い会じゃないんですけど、そういう交流の場とかがあると、数時間の中でも、壁打ち相手になれたりとか、コラボレーションができるかもしれないですねっていうような出会いになっていくのかなとも思いましたので、 そういう経営者の方たちが1歩踏み出せたり、区民の方が越境して、いろんな会社のお手伝いができるような土壌作りみたいなのができるといいんじゃないのかなと思いました。
　経営者の方だけではなくて、会社員の方も実際に副業してみたりですとか、例えばボランティアで、プロボノ的に地域の企業の情報発信をお手伝いしたりみたいなことができると、地域に対する愛着みたいなことにもなりますし、孤立してててコミュニティーが不足してるっていうのは皆様からも声が出ていたの

で、繋がりが出たりとか、それがプラスアルファの収入になれば、まさに地域で消費していくことにも繋がるでしょうし、自分が地域の役に立ってるであったりとか、ここで感謝される繋がりができたみたいな自己肯定感みたいなものを得るきっかけにもなるんじゃないかなと思ったので、人材が移動することで、もっと地域が活性化するといいなというのを感じました。

【吉田（亮）委員】
三茶ワークの吉田と申します。私は三茶ワークカンパニーという、すぐ隣でシェアオフィス、コアキングスペースの運営をしていたり、セタカラーという世田谷区さんと一緒に取り組んでいる補助金と専門家で事業者を支援する取り組みの事務局などをさせていただいております。

そういう取り組みをしていて感じることと言いますか、世田谷の経済の発展を考えていく上で世田谷の資産だなと思うことが大きく２つあります。

１つは住んでいる人。人のスキルがめちゃめちゃ高いというのがコワーキングスペースの運営をしていたり、セタカラーで専門家をお繋ぎする時に感じているところです。その人たちは意外と今は都心で、都心に付加価値を提供してる感じがしていて、世田谷に住んでるけど仕事は都心で、都心の大企業とか、大企業をクライアントにすごい価値を提供しているみたいな。それをもうちょっと自分の住んでいる世田谷の街に還元できるような仕組みって作れないかなとか、私たちコワーキングスペースを運営していたりすると、そういった方が住んでいるので、世田谷の事業者の方にそういった方を紹介すると、先ほどもあったようなコラボレーションとか、相乗効果が生まれるなっていうのを感じています。

実際に事例であったのは、セタカラー今年度応募があった元々整備士の方が、車の出張整備サービスという事業を世田谷から立ち上げようということで応募し、採択されていたんですが、そのサービスを作る時に、そもそもビジネスモデルどうするかという話や、それをどういう風にフレームを作って、エンジニアじゃないけどそのシステムをどう運営していくかとか、コミュニケーションを今だったらLineを使って円滑なコミュニケーションをどうしていくかとかいろんな論点があったんですが、それが全て地域のプロフェッショナルの人で解決してしまったっていう形で、１つはビジネスモデルどうするかっていうのは、世田谷に住んでたシリアルアントレプレナーの方がメンターとして入ってビジネスモデルを一緒に作ったり、システムを作るところもノーコードといってプログラミングを書かなくてもシステムを作れるサービスがあるんですが、それを自分で事業でやっている方がサポートに入ってシステムを作ったり、LineのところもLineのコンサルをしている方が三茶ワークの会員でい

て、そこで整理をしてLineの仕組みを作ってもらったりっていうような形で、住んでいる人たちの持っているスキルだったりとか、経験っていうのが世田谷のすごい価値だなという風に思っていて、そういったところを繋がる仕組みが、それが場なのかウェブなのかわからないんですが、重点的に取り組むっていうのはすごい可能性を感じています。

もう1点可能性を感じているのは、世田谷の人たちはすごいお金を持っているっていうなんとなく皆さん感じてるところだと思うんですけど、そこをすごい感じていて、お金を持っているっていうところのプラスに、消費のためのお金というより、いいことがあればそれは投資に回したいっていう意識を持っている人たちがすごい多いなという風に感じています。

私たちの会社も地域の人たちの投資によって出資をして株式会社として成り立ってるんですが、そういった方たちも多いですし、隣でファーマーズマーケットをやる時に、そこで集まる出店者の人たちは、世田谷の人たちは新しいことに対する財布の紐が緩いというか、他の地域よりも1番売れるというような声もあったりとか、世田谷の人たちっていいことにお金を投資しようという意識があるんだな、という風に思ってます。

地域の循環を考えた時に、如何にそういうお金を投資したいっていう人たちの投資を集められるか、如何に街の人たちから投資を集められるかっていうのは地域経済の循環にとって必要なんじゃないかなという風に思っていて、そういった形をただ寄付っていう形の文化だけではなく、しっかり経済的なリターンがある形の、わかんないですけど地域限定の証券取引所みたいなものを、テクノロジーを使って実現するということなのかもしれませんが、そういった形でしっかり街の人たちからの投資を集められると、地域経済循環というのが加速していくんじゃないかと、活動しながら考えていることです。

【大藤委員】

大藤です。よろしくお願いします。

私は会社員として、普段は世田谷区外で働いておりまして、住民として世田谷区に住んでいるものになります。ですので、地域経済というところについては、消費者として普段世田谷区で過ごして感じているところになるので、どちらかというと、論点の1つ目と2つ目のところについては、本日ご用意いただいた資料6をベースに、自分が感じたところを少しコメントさせていただけるといいかなと思っております。大きく3点ほど気になったところがあります。

1つ目ちょっと気になったところは、先ほど質問し忘れてしまったなと思ったんですけれども、P.7で、区内産業の状況というところを、データで記載していただいたところがあると思います。こちらについて、結論として、既存の主

要産業の活性化支援に力を入れていく必要があるのではないか、という風に書いていただいていまして、これはすごく主要産業である卸ですとか、小売りっていうようなところですとか、そういうところがやっぱり世田谷の魅力ではあるので、ここに力を入れていくってことは、すごく価値があることだなと思いつつ、割とそのデータを見ていると、情報通信業みたいなところがすごく突出をしていたりですとか、インターネット付随サービス業みたいなところが突出していたりするところもあるので、大きく経済を伸ばしていくっていうところを考えると、既存主要産業の活性化っていうところよりも、むしろ新規で、結果が出ているようなところを伸ばしているところに注力した方が、もしかすると、結果が出たりもするのかな、というような短落的な考えもあったりもしまして、その辺りをどういった状況なのかなっていうのは、是非もう少し詳細に聞けると嬉しいなと思いました。
あと2点ほど私が気になったポイントっていうところで言うと、P.11にあるように、そのIT活用についてかなり苦手意識があったりとか、どうしたらいいかわからないっていうような声が高いのかなと思いました。こちらについては、これまでも他の皆さんもおっしゃっていたように、まさにその行政っていうところから支援をしていけるようなところなのかなと思っています。中小事業者さんとかが、こういったITスキルを使いこなす人材っていうのを、個別に採用したりすることがかなりハードルが高いと思うので、まさに行政でそういった人材を揃えていって、地域で支援していくみたいなところが価値が出やすいのかな、という風に私も感じました。
もう1つはSDGsへの理解っていうところなんですけれども、 P.12に関しては 、何から取り組んでいいのかわからないっていうのがかなり高かったんですけど、私もこれもそうだなと思いつつ、個人的に感じた感想っていうところなんですけども、取り組むことによるメリットがわからないっていうのは、私ももし自分が一事業者として事業を営んでいるとしたら感じるかもしれないな、というのは思いました。やっぱり大企業さんとかですと、こういったSDGsの問題に取り組むことで、自社の利益っていうところに跳ね返ってくるところも感じられやすいと思うんですけども、中小事業者さんとかですと、あんまりSDGsが関係ない事業内容なんかを取り組んでいらっしゃる方は、SDGsに取り組むことで、自分がどう儲けに繋がるんだろうみたいなところは、あんまり実感が持てないのかなと思います。そうしたところにこれを取り組む意味があるのかっていうところをまず気付かせていったりですとか、行政から与えていくことが必要なのかなという風に感じました。そうした時に、現状の検討内容なんかを見させていただいてると、すでに検討され始めているのかなとは思うんですけども、より詳細に今後検討ができていくと、自分としては面白いなって

いう風に思いました。以上になります。

【児玉委員】
私は建設団体防災協議会という区内の建設事業者、そしてあと建設労働組合でつくる団体の事務局をしております。私どもの会員は区立の小中学校の改築とか改修をやったり、区内区民の皆さんの住宅の改修改築なんかをやってます。建設業界の現況ですと、ご承知の通り、コロナやウクライナ侵攻、円安ということで、資材が大変高騰している。また、半導体不足での設備 機器が入ってこないということで、仕事があっても仕事ができないというような状況が一方であります。さらに言いますと、慢性的な魅力発信がないということもあるんでしょうが、若い人が入ってこない産業の１つでもありまして、高齢化が大変進んでいるという状況にあります。この建設業界も、例えば大きな地震震災、自然災害があった時には地域に建設業がないと、例えば、瓦れき撤去や人命救助、こういうことをやる人がいなくなってしまうので、私どもの活動も必要だということで行ってます。この建設業界として今進めてることで、持続的な地域循環型の経済を進めていきたいという風に思ってます。
先ほどの資料の報告の中でも、地域外への資金の流出が多い産業の１つでもありまして、 例えば民間で考えますと、住宅を買う建てるとなった時に、今ほとんどが建売り住宅、もしくは１販メーカーということで、地域の工務店さんって、本当に今はもう小さな改修工事をやる事業さんが大変増えてます。また、公共工事でも元請事業者さんが区内事業者さんでも、下請け・再下請けとなると、どうしても他地域から呼んで仕事をするということが増えています。私どもとしてもできるだけ区内の公共・民間問わず、地元業者が受けれるように、またそれを地域の下請け、そして雇用につなげていく取り組みを進めていきたいという風に思ってます。ただ、区内事業者だから仕事をやれるということではないので、やはり先ほどお話のあったSDGsとか環境、こういうものに取り組む事業者が結果として、消費者の方や、公共の方で選ばれる仕組みだったり、それを選んでもらえる業者を育成していくことが、建設業界として必要かなという風に感じております。以上です。

【松原委員】
よろしくお願いいたします。東京青年会議所世田学委員会の松原と申します。25歳から40歳の青年経済人が所属する団体でございます。
私は渋谷区恵比寿の方に会社を２つやっておったりですとか、埼玉県の川越市というところで、教育の事業や会社をやっていたりですとか、三軒茶屋で飲食店をやっていたりですとか様々です。

私自身は世田谷区の烏山の方に住んでおります。青年会議所に関しては、かなり行政側と連携をして様々取り組むことが多くございまして、特に私自身ですと、去年教育委員会さんですとか、渡部教育長とも、一緒にやり取りさせていただきながら動いてまいりました。こちらの挙げていただいてる資料に関しては、個人的にはまとまっておられて、改めて私から何かを申し上げるっていうことは、特にないなと思います。
行政側と民間側でやることを区別して行っていくことが非常に重要かなっていう風に、私自身は思っております。例えば「せたがやポート」ですとか、こういったものって、多分渋谷とかではない取り組みですし、こういったものができている時点で、とても素晴らしいなという風に思っております。
世田谷の商圏がとても魅力的なものであるということは、東京都内だけでなく、日本全国から見ても、そういう風に見られてるものだと思いますので、いかに創業したいという風に思っていただけるか、誘致できるかというところに、実はヒントがあるんじゃないかな、という風に思っておりまして、例えば、経済特区のようなものを設けて、企業誘致なんかもしているかと思うんですけど、すぐ隣の渋谷なんかも IT 企業が多く集まっている街になっていますし、例えば代官山にもたくさんそのような企業がおられて、じゃあ 3 年じゃできないのかっていうと、できなくはないはずだという風に思いますし、たとえば下北でもできるだろうという風に思っています。
行政側の方で旗振りをしていただいて、民間側がそれを知った上で動くということができれば、僕はいいんじゃないかなという風に聞いておりました。
行政側が計画されていることを我々民間側がいかに知るかということが大事だと思っておりまして、たとえばもう少し細かく区切って「世田谷区」として取り組むのではなく、例えば、「烏山地域」でどういう風に取り組んでいくかとか、「三軒茶屋」でどうやって取り組んでいいかとか細かくセグメント分けをして、コミュニティを作って、行政側と民間側と、また民間企業と地域住民の方がこう手を取り合って話し合っていく、そういった場があるといいんじゃないかな、という風に思っておりました。以上でございます。

【宮井副会長】
しんきん協議会という面から話をさせていただきたいと思います。
普段我々は金融面というところで、特に資金繰りの相談とかよく受けるところです。今から思い返してみますと、この丸 3 年、本当にコロナが始まった時に皆さんの資金の相談をかなり受けました。ゼロゼロ融資って、皆さんよく最近お話を聞くと思うんですけれど、それの返済が今年の 4 月、5 月から本格的になるということで、そちらの資金の相談、ご返済のやり方どうしようかとかよ

く相談を受けておりますで、その相談と一緒にですね、本業の方も支援って言いますか、お手伝いをしようというところで、いろんなお客様からお話を聞いてるんですけれど、皆さん、例えば製造業とか、例えば飲食とかでもですね、非常にこだわりを持って、ちょっといいものを作っているんですが、ＰＲのやり方とかにもう少し工夫がいるということで、どのようなことやったらいいでしょうか、というご相談も受けたりします。
その中でいろんな専門家と相談したりとか、ＰＲのやり方、ネットを使ったりとかっていうお話をするんですけど、その辺のやり方を区と人と、スタッフと連携しながらやっていきたいというところと、あとは事業承継というところで、70 代の事業者の方が大変多いというところで、やっぱり若い方、やりたい方もいらっしゃると思いますので、マッチングのやり方とかも検討していかなきゃいけないというところと、最後に、このような全体としていろんな施策とか、せっかくいいことをやっていると思いますので、 ＰＲのやり方、全部の事業者に行き渡るのもなかなか大変だと思いますけれど、いろんな団体とかを使いながらやっていって、事業者の方にこのような取り組み、例えば、制度融資のやり方、今こういうのがありますよとか、万遍なくＰＲをしていくのが課題の１つではあるのかなと思います。以上です。

【竹内委員】
産業振興公社です。区の外郭団体として、中間支援機関として、今、宮井委員から話のあった融資経営相談ですとか、就労のこと、それから中小企業の福利厚生、そして観光等に取り組んでるわけですけども、融資経営の話について宮井委員からあったので、就労の話をさせていただきます。
今、コロナから立ち直りってところで、求人がものすごく増えて、ただ、なかなか人が取れないという状況です。特に顕著なのは福祉系です。福祉を産業と見れるかどうかということもあるんですけれども、介護保険のような事業所さんで言うと、収入が保険制度で全部決まりますから、なかなか工夫が難しいという中で、なかなか求人を出しても来ないという状況があります。今、福祉事業所の皆さんと定期的に懇談会を持って面接などいろいろやってるんですけども、1 つは事業所側からすると、なんでもできる人、即戦力が欲しいということで、すぐ働ける人みたいな感じが強いんですけど、こちらの方は、今、キャリアチェンジというような形で、他業種から参加をしていただくようにカウンセリングなどをしながら進めていくわけなんですが、なかなかマッチングしないんですけども、事業所さんからの相談事としてあるのが、いろんな人を多く雇ってしまうと、管理が難しい、ローテーション決めたりもあって、なかなかできないっていう声が出ます。そういったようなところに IT を活用すると

か、そういったとこは全然できていないので、今日お話があったような、いろんな方々の特徴なんかを活かしながら効率的に、いろんな人たちが参画できるような地域に、そういった人たちが少しずつ参画することによって、事業が生まれるような形にできないかなと考えています。
もう１つのテーマとして、多様な働き方というのは、絶対これから広がっていくし雇用就労だけじゃない、請け負い的な契約関係に基づく仕事って増えていくと思うんですけれども、労働法制あるいは保険制度、そういったものがどうなのかっていうところはあると思うので、そういうのを進めていく中でのいろんなトラブルの相談ってのは結構受けてますので、 そういったところについて１つの自治体だけでできることではないわけですけれども、そういうところの先進地域として、セーフティネット的なものを構えるということは必要なのかというようなことは、テーマとして考えてるところです。

【大平委員】
世青協の大平と申します。世青協は名簿に書いてあるんですが、世田谷区農業青壮年連絡協議会という長い名前なんですけれども、略して私たちは世青協と言ってます。農業者の後継者の団体です。世田谷区内の数百、数千の農家の団体です。
今、いろんなお話の中で、農業の果たす役割っていうのは、大きいのかなという風に思っていて、先ほど会議のお茶を世田谷産にしたらどうかっていうお話をいただいたんですが、区内でお茶を作ってるところは１件もありません。ごめんなさい。
私たちの課題としては資料に書かれている通り、後継者不足。それから、農地の相続による農地の減少が私たちの１番の課題です。今、40 代、50 代の方が農家の親御さんが亡くなって、その後農家を引き継ぐと、そこで約半分ぐらいの農地がなくなってしまう現状です。農地の減少を止めるのは、現状の税制では難しいかなと思っています。ただ、税制を議論する場ではないので、そのことは置いといて、私たちは少量多品目で、いろんなものを生産しているんですが、今のお話の通りお茶とかの大きな産地ではないので、まとまったものを生産する能力がありません。みんなそれぞれいろんなものを作っています。うちはブドウをつくっていて、隣の畑では野菜を作っている。そういう現状です。加工品を作るとか、そういうことがなかなか現状としては難しいのかなという風に思っています。それと私たちの１番の弱点は先ほどからお話が出ている通り、広報、IT とかが１番苦手な団体でもあります。そういう中で、行政の皆さんと力を合わせてそこら辺にも力を入れていきたいなという風に思っています。国内の農家の現状としては、今お話した通りです。

【千葉委員】
世田谷工業振興協会の千葉です。よろしくお願いいたします。
略して世工振ということで、世工振も工業の場所等が区内にあります。ありますが環境が実は厳しいです。なぜかというと、工業または準工業地帯というのが世田谷区内にいくつかあるんですけども、僕が関わらせてもらってるのが桜新町なんですね。例えば桜新町は準工業地帯ということで、敷地面積とか広く作れるものができたのはスーパーマーケットです。あとは、マンションが建蔽率がちょっと優遇されてます。工業用の場所なのに、そういう風な状況に今なっています。また、単純に先ほどから出てる担い手がいないとか。あとは、そもそも工業をする環境が年々厳しくなって、車の止め場所もそうですし、音が出る、においとかそういうものの優遇が今されてないところで、これはしょうがないとは思うんですけども、そういう部分も含めてなるべく住民の皆さんに理解してもらおうということも踏まえて、我々の方で今活動しているところです。産業の部分だけでなく、地産地消というのがそもそも工業だと難しい。例えばですが、食品加工とかになると区内で別に作ってるわけではないので、そう考えると、ほとんど消費されるのがセブン-イレブンさんという言い方は良くないんですけども、そういうところに行ってしまう。そうすると、そもそものものとして地産地消以外の話になってくるので、工業的には今現状だと、SDGsの話もなんとかしなきゃいけないところなんですが、これも正直厳しい状況になっています。ただ絡んでないわけではないんですけど、我々の方も農業さんと部分的には絡んでたりするものもあるので、そうすると、世田谷みやげとかそういうもので地産地消できるものを協力してやっていくような形を取りながら、工業もどうやって一緒にやっていくのかを考えなきゃいけないのかな、という風には思っています。
ちなみに僕は全く工業は関係なくて、撮影の仕事をやっているので、フリーランスの状況はすごくよくわかります。色々とお話できればと思います。以上です。

【栗山委員】
世田谷区商店街連合会から来ました栗山と申します。先ほどからいろんなお話も出ていて、時間の方もだいぶ経ってると思いますけれども、本当に地域のことに対して、若い人もすごく考えてるんだなと思って、すごく勉強になりました。ありがとうございます。
僕は商店街という立場なので、団体側からの話を少しさせてもらおうと思ってるんですけれども、商店街としては、普段の活動、お店の営業はもちろんある

んですけども、活動としてはやっぱり街の賑わい作りっというのが１番メインの活動になるのかなと思っています。けれども、最近はそれだけではなくて、安全安心なまちづくりだとか、まちづくり関係のことは結構あったりするんですよね。商店街を普段歩いていると思うんですけれども、街路灯がついてるじゃないですか。明かりがついてますよね。あれは実は補助金はいただいてますけれども、商店街が建ててるんです。それを多分ご存知の方って少ないんじゃないかな。そういう活動をやっていたり防犯カメラの設置に関しても、今は補助金の率がけっこう高く出るようになったんですけれども、最初の頃はそんなに補助金の額も大きくなくて、そういったことも積極的に取り付けてきたりだとか、そういったものがあると犯罪の抑止力になったりだとかあると思うんですけれど、そういった活動をしていたり、最近だと高齢者が増えてるので、高齢者の見守りだとか子供の食育、文化の伝承等々、これはうちの理事長の受け売りなんですけれども、比較的消費者に近いところで活動している団体かなという風に思っています。そんな商店街なんですが、商店街振興組合という法人組織と商店会という任意団体があるんですが、振興組合の方は、行政の方から年に１回、消費者懇談会を義務付けられてまして、そこでそれぞれの地域、地元の商店街で、住んでる方に声掛けをさせてもらって、いろんな意見交換を年に１回やってます。いろんな話があるんですけれども、アンケートも取っていて、そのアンケートの中で非常に残念なお話が１つ以前ありました。大学生の方だったと思うんですけど、商店街のお店に入るのが怖い、話しかけられたくないみたいなアンケート結果があって、コミュニケーションを取りながら、お店の商品を買ってもらうっていうのが、商店街の特徴の１つというか、売りの１つだと思ってたんですけども、そこが逆になってる部分があるのかなっていうので、ちょっと残念だったんですけれども、商店街は、今コロナでちょっと止まっちゃってますが、元々はイベントをそれぞれの地域でやっていて、もっと地域の人たちが参画できるような、住んでる人が参画できるようなイベントをもっと考えたり、そういった取り組みを進めた方がいいのかなと思いました。

地域でのいろんな団体さんとの連携は、もしかしたら、商店街が１つのキーになるかもしれないですよね。高齢化がお店の方では進んでいて、後継者不足が１つ大きな課題になってます。これをなんとかしなきゃいけないという風に思っておりますけれども行政の力も借りて、地域、商店街の活性化等を図っているんですけれども、例えば、産業ビジョンの振り返りっていうところで、商店街に関わるところもいくつかありましたけれども、僕は地元でまちゼミ・まちバルをやっているんですが、なかなか浸透しないところもあって、やっぱりＰＲが足りないのかなという風に思います。

産業ビジョン、その他の項目に関しても、いいこと多分いっぱいあると思うんですけど、どれぐらい使ってる人がいるのというのも振り返りの中では見ていかなきゃいけないのかなという風に思っています。
世田谷の特徴ってなんだろうと考えた時に、住んでる人だったり、よそから見た人から世田谷っていいよね、とよく言われると思うんですけど、何がいいのかなって考えた時に、世田谷のいいところっていっぱいあると思うんですけれども、僕は１つ、やっぱり街を歩いていろんなものを見てもらい、体感してもらうっていうのが知ってもらう上でいいのかなという風に思ってます。ウォーカブルですよね、 ウォーカブルなまちづくりっていうのが、１つのやっぱりポイントになるのかなという風に思っています。そういった活動を続けていければ、という風に思ってますけれども、この会議でもいろんな勉強をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【古谷委員】
古谷でございます。皆さん長いから短く言います。資料６ 世田谷区内の経済産業状況についてっていうのは、なかなか面白い資料ではありました。これは、もうちょっとこうしたいなっていうのはあるんだけども、こういうのをまとめていただいたのは大変参考になるなと思いました。なかなか面白かったです。
産業ビジョンの振り返りについては、他の会議でも申し上げましたが、今日、多分これを初めて見られた方多いと思うんですね。こんなにいろんなことやってんですよ。ただ、問題は、費用対効果がものすごい悪いんですよ。twitter で発信しましたとか書いてあるけど、何件フォロワーいますか？たった何百人。世田谷区民何人いるんだって話です。そこに何千万とか何百万も投資してやっていて、それだけしかできてないんですか、っていうことを別の会議で申し上げました。これに関しては、やっぱり費用対効果を考えないと、我々民間企業だと撤退なんですよ。失敗なの。たくさんのことをやっていただいているんですが、やっぱりそれが満ち足りていないっていうのが現状なんです。それは別の会議で追及をしてるので、引き続きお願いをしたいと思います。
そして、皆さんこういうところに来ると自分の会社とかＮＰＯとか我々のような団体だと、自分たちの団体の主張を一生懸命するんですが、そういう場ではないから団体の視点を持って、課題に目を向けるべき。細かいことで言い出すとキリないですよ。なので、ポイントは４つの基本的方針、多様な地域産業の基盤強化、起業促進、多様な働き方の実現、地域課題解決に向けたソーシャルビジネスの推進、持続可能を考慮した事業活動及びエシカル消費の推進をどうやって、多くの人が認知ができるかっていうことを議論しなきゃいけなくて、マニアックなことに行きすぎちゃうと、この会議の時間の中で終わんないんで

すよ。今日は初めましてなんで皆さんがやってること、それから課題だと思ってることをお話しすればいいと思うんですけど、次回以降それやったら、なにも解決しないので、やっぱりポイントを絞って、会議も進めてもらいたいです。
あとはこういう場に来ると私たちはこういう風に思ってますとか、私、こう思ってます、役所の人はなんとかしてくださいって言っても解決しませんから、それだけは認識しておいてください。街を作るのは我々区民なんですよ、行政が作るんじゃないんです。行政は我々ができないことをお金払ってやってくれるだけの話なんで、こういうことはやってくださいってことは、やってくれる。だけど、街を作るのは、世田谷区を作るのは我々ですから、その視点を持って議論をしていただきたいし、会議の進め方もしていただきたい。今日のやり方だと地域経済の状況とか、論点メモにも「自身」と書いているが、それぞれの捉え方が違うからいろんな意見が出る。もう少しフォーカスしたい。以上です。

【長山会長】
はい、ありがとうございました。いくつか、リアクションありますか。

【納屋課長】
たくさんのご意見いただきまして、ありがとうございました。先ほど皆さんからいただいた意見は、我々行政が回答するということではなくて、いろんなご意見をいただいて、次の第2回、第3回に繋げていってより良いものを作り上げていければと思っております。そのように本日ご意見を受け止めさせていただきました。
1点だけ、大藤委員からご質問ということで、いただいていた箇所についてだけ簡単に触れさせていただきます。ご質問が、主要産業ではなくて、情報通信とかインターネットそういったところに力を入れた方が結果が出るんじゃないかというご質問だったかと思います。そういった考え方もあると思いますし、もしくは違う考え方もあると思いますので、本日はそれに対して我々の考え方を申し上げるというよりは、そういった視点もあるということで共有をさせていただいて、次回以降、そこも含めて深掘りした議論ができればと思っております。回答ではないのですけど、そのように受け止めさせていただいたということでございます。

【長山会長】
それでは、時間が経ってしまいましたので、古谷委員からもご指摘ありました

が、次回以降、テーマを絞って進めていければという風に思います。それでは活発なご意見いただきまして、ありがとうございました。本日いただきました様々なご意見やご指摘を踏まえまして、次回以降に向けて、事務局にて、整理をしてもらえればと思います。最後に事務局より連絡事項ございましたらお願いします。

【納屋産業連携交流推進課長】
事務局より事務連絡を2点ほど申し上げます。まず、本日の会議録につきましては、事務局にて作成の上、後日皆様にメールベースで確認をお願いしたいと思います。 その上で準備が整い次第、ホームページへも掲載をさせていただきたいと思いますので、その観点も含めてご確認をいただければと思います。
次に、次回の開催予定でございますが、資料10をご覧いただければと思います。次回第2回でございますが、5月中旬頃を目途に調整をさせていただければと考えております。その後は7月、9月、11月ということで、今の時点での想定をしてございます。
なお、次回第2回につきまして、本日第1回目で総論的なご意見をいただいたということでございますけれども、第2回目につきましては、複数の方からプレゼンテーションをしていただくとともに、4つの条例の基本的な柱に基づく形で目指すべき姿であったり、取り組みを具体的にもう少しテーマを絞った形で、ご議論をお願いしたいと考えているところでございます。
なお、次回の日程調整につきましては、できるだけ早い段階で調整の上確定をさせていただきたいと思っておりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

【長山会長】
それでは最後に岩本副区長にご挨拶いただければと思います。

【岩本副区長】
本日は、ご参加いただきまして、どうもありがとうございました。多種多様な立場から、見識に基づいて、ご意見をいただきまして、ありがとうございます。
条例に基づく区長の付属機関ということで、地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方というちょっと硬い諮問になっておりますけれども冒頭、長山会長からお話いただいたように、ざっくばらんに、様々なご意見いただきながら、実効性のある会議にさせていただければ、と思っています。 次回以降もどうぞよろしくお願いをいたします。本日はありがとうござ

いました。

【長山会長】
ありがとうございます。この後、産業ビジョンを作ったり、産業振興計画を作るということで、この会議の中でやっていくことになりますけど、せっかく多様なメンバーが集まっているのでこういった中から色々なアイデアが生まれてきたり、その事業が生まれることも期待しております。